

指導と評価の年間計画 地理B（第3年次）

目 標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や気候などの自然環境について、人々の生活と結び付けながら取り扱い、理解を深めさせる。 ・資源と産業や都市・村落、生活文化について、写真や具体的事例などを取り上げることにより、理解を深めさせる。 ・地誌の見方の入門として、郷土の教材である岐阜市、各務原市、大垣市などを取り上げ、地誌の見方の方法と有用性について理解させる。 ・対象範囲を郷土から、国家、大陸規模へと拡大させ、国際レベルで生じている様々な課題について考察することで理解を深め、国際社会に生きる自覚と資質を養う。 ・イメージしやすいようにICT機器や視聴覚教材を活用し、理解を深めさせる。 ・資料の読み取りや考察する時間を授業の中に設定し、意見交流を通して理解を深めさせる。

評価の観点	評価の内容	評価の対象
関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	観察、生徒との対話、グループ活動への取組、プリント、生徒による自己評価
思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	生徒との対話、グループ活動での発言、プリント、生徒による自己評価、考査問題
資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	諸資料の読み取り、プリント、レポート、発表
知識・理解	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。	生徒との対話、考査問題

月	単元・項目	単元を貫く目標	主な学習活動と評価のポイント	主な評価方法
4月	第I編 地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図 第1節 世界観の変化と地図 第2節 地球儀と世界地図 第3節 地理情報の地図化	地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観を考察するとともに、地図の有用性を理解し、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身に付ける。	・地球儀や様々な種類の地図の読図を通して、各時代の人々の世界観を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・前期中間考査
	第2章 地図と地域調査 第1節 地図の活用 第2節 身近な地域の調査	直接的に調査できる地域を地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色を捉える地理的技能を身に付ける。	・地形図の読図や資料分析を通して、岐阜の歴史や産業、人々の生活と自然環境との関連性について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・前期中間考査
5月	第II編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第1節 地形	世界の地形、気候、植生などの分布や特徴、人間生活との関わりなどについて系統地理的に理解し、現代世界が直面している環境問題について考察を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・安定陸塊、古期造山帯、新期造山帯の形成要因を理解し、その分布から地下資源との関係について考察する。 ・外的営力と内的営力の違いや地形への影響について理解する。 ・山地や平地、海岸などの地形の形成過程を理解し、人々の生活にどのような影響を与えているか考察する。 ※提示された写真や資料から、地形と人々の生活との関連性を考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・前期中間考査
	第2節 気候		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例から、気候要素と気候因子について理解する。 ・気候の三要素である気温、降水、風について、そのメカニズムや分布を理解し、人々の生活にどのような影響を与えているか考察する。 ※提示された写真や資料から、気候のメカニズムについて考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・前期中間考査

6月	第3節 自然と生活	9	世界の地形、気候、植生などの分布や特徴、人間生活との関わりなどについて系統地理的に理解し、現代世界が直面している環境問題について考察を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 各気候区の特徴について、植生や土壌の分布と結び付けながら理解し、気候と人々の生活の関係について考察する。 ※提示された写真や資料から、気候の特徴や、気候と人々の生活との関連性を考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 前期期末考査
	第4節 自然環境に関する諸問題	6		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの環境問題が、どのような地域に生じし、どのような要因が共通しているかについて考察する。 ※提示された写真や資料から、気候の特徴や、気候と人々の生活との関連性を考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 前期期末考査
7・8月	第3章 資源と産業 第1節 農林水産業	10	世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などの分布や特徴などについて系統地理的に理解し、現代世界や日本が抱える資源・エネルギー、食料問題について考察を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ホイットルレーの農業地域区分を事例として取り上げ、農業の類型化を試みる。 世界の諸地域の具体的事例から、農業地域の形成がその地域の自然環境や歴史・文化と密接な関係があることを理解する。 日本が抱える諸問題について理解し、国際社会における日本の在り方について考察する。 ※提示された写真や資料から、農業の特徴や、人々の生活との関連性を考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 前期期末考査
	第2節 資源・エネルギー	8		<ul style="list-style-type: none"> エネルギー資源の偏在性と利用の偏りについて理解し、その解決策を考察する。 原料資源の分布を地形との関係から考察し、その利用について理解する。 ※提示された資料から、エネルギー資源や源流資源の偏在性と利用の偏り等を読み取る。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 前期期末考査
9月	第3節 工業	8		<ul style="list-style-type: none"> 工業立地には様々な条件が存在することを、世界の代表的工業都市の事例から考察し、理解する。 日本が抱える諸問題について理解し、国際社会における日本の在り方について考察する。 ※提示された資料を読み取り、工業の立地条件や問題について考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 後期中間考査
	第4節 流通と消費	9		<ul style="list-style-type: none"> 交通の種類と特徴を理解するとともに、結び付きを強める現代社会の諸課題について考察し、理解する。 産業のソフト化・サービス化といわれる構造変化が進む現状と課題を多面的に考察する。 ※提示された資料を読み取り、交通・通信技術の発達過程やそれに伴う産業構造の変化、人々の生活の変化について考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 後期中間考査
10月	第3章 人口と村落・都市 第1節 人口	8	世界の人口、都市・村落などに関する分布や特徴、動向などについて理解し、現代世界や日本の人口、居住・都市問題について考察を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口分布を知り、そこから世界が抱える人口問題、日本が抱える人口問題について考察する。 人口ピラミッドのそれぞれの特徴と傾向を知り、世界の諸地域が抱える人口問題の類型化に活用する。 ※提示された資料を読み取り、先進国と途上国における人口問題について考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 後期中間考査
	第2節 村落・都市	8		<ul style="list-style-type: none"> 地形図の読み取りを通じて、集落の立地に関する歴史的背景や地理的要因について考察する。 都市の立地条件と機能について理解するとともに、発展途上国と先進国における都市問題の違いやその解決策を考察する。 ※提示された資料を読み取り、それぞれの地域が抱える都市問題を多面的・多角的に考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 後期中間考査
11月	第4章 生活文化と民族・宗教 第1節 衣食住	3	世界の生活文化、民族・宗教の分布や特徴、民族と国家の関係などについて理解し、現代世界の民族、領土問題について考察を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 世界の衣服・食生活・住居の分布や特徴について地理的観点から考察し、地域や民族によって異なる様々な文化について探求する。 ※提示された写真や資料をもとに、衣食住に見られる文化の違いやその要因について、地理的観点から考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 自己評価票の記入 年度末考査

11月	第2節 言語と宗教	4	世界の生活文化、民族・宗教の分布や特徴、民族と国家の関係などについて理解し、現代世界の民族、領土問題について考察を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・言語や宗教の分布や特徴について歴史的背景や地理的要因も踏まえながら理解し、人々の生活や社会に与える影響について考察する。 ※提示された資料を読み取り、地域紛争と言語・宗教分布との関連性について考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・年度末考査
	第3節 民族と国家	8		<ul style="list-style-type: none"> ・国家の要素・領域について理解し、民族と国家の在り方について考察する。 ・地域紛争が起こる理由として、言語や宗教の違いや資源の偏在性が大きな要因となっていることを理解し、その解決策について考察する。 ・日本が抱える領土問題について理解し、その解決に向けた今後の方向性について考察する。 ・国際連合の役割や現代社会において加速する地域統合について理解し、地域紛争を解決するための国際協力の在り方について考察する。 ※提示された資料を読み取り、民族分布、言語・宗教分布、資源の分布と地域紛争との関連性について考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・年度末考査
12月	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分	6	現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義やその有用性について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の地域区分の方法（州、大陸、文化、国家群、経済水準、経済成長率など）と特徴を理解し、各地域を比較し、考察する。 ・各地域で見られる地球的課題に着目し、各地域の比較や課題解決に向けた取組について考察する。 ※提示された資料から世界の地域区分を実際に行い、各地域を比較しながら考察を深める。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・年度末考査
	第2章 現代世界の諸地域 第1節 中国	6	現代世界の諸地域について、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解するとともに、地誌的に考察する方法を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の歴史や経済、工業や社会環境などについて理解し、中国が抱えている諸課題（環境問題、民族問題、経済格差問題など）について考察する。 ・中国と日本との関係について歴史的背景も踏まえながら理解し、今後の関係の在り方について考察する。 ※提示された資料を読み取り、中国社会が抱える諸問題について考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・年度末考査
1月	第2節 韓国	4		<ul style="list-style-type: none"> ・韓国の自然と文化について、日本との比較を通してその特徴を理解する。 ・身近な事例を通して韓国の経済成長について考察し、近隣諸国との関連性について理解する。 ※提示された資料を読み取り、韓国の自然や文化、経済成長について考察する。 ※プリントを活用し、考察の過程や授業の感想を適切にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価票の記入 ・年度末考査
	第3節 東南アジア 第4節 インド 第5節 西アジア・中央アジア 第6節 アフリカ 第7節 EU 第8節 ドイツとポーランド 第9節 ロシア 第10節 アメリカ 第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ	15		<ul style="list-style-type: none"> ・幾つかの小グループに分かれ、第3節～第12節で取り扱う国や地域について、既に授業で取り扱った第1節（中国）・第2節（韓国）を参考にしながら、自然環境や歴史、経済、工業などの社会環境についての地誌的考察を行い、パワーポイントにまとめてプレゼンテーションを行う。 ・各グループの発表に対しての質疑応答や教員による補足説明により、更なる理解を深める。 ・第3節～第12節で取り扱う国や地域が抱える諸課題に対して、その解決策について考察する。 ※インターネットや教科書、資料を活用して、それぞれの国や地域について考察し、その結果をパワーポイントでまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・レポート確認 ・発表 ・自己評価票の記入 ・年度末考査
2月	第3章 現代世界と日本 第1節 世界の中の日本 第2節 持続可能な社会に向けて	8	現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に理解し、日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて考察を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本が抱える様々な地理的課題について多面的・多角的に考察し、その原因と解決の方向性や今後の展望を深める。 ・生徒が課題を設定し、探求しながら資料を作成し、それに基づいて自らの解釈も加えて発表したり意見交換をしたり、論述したりする言語活動や、さらに学習成果を社会に提言するなどの社会参画を目指すことを視野に入れた一連の主体的な学習を行う。 ・教員による補足説明により、更なる理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・プリント確認 ・レポート確認 ・発表 ・自己評価票の記入 ・年度末考査

単元指導計画

単元の名前	農林水産業
-------	-------

1 基軸となる問い：人々が安心して「食べる」ために、どのように共生していくべきだろうか？

2 単元の目標

世界の農業に関する分布や特徴、動向などについて、自然環境に関する既習の知識や提示された諸資料を活用しながら考察して理解を深めるとともに、現代世界の食糧問題を大観させる。また、他国の農林水産業と比較しながら日本が抱える農林水産業の課題や食糧問題について理解し、今後の日本の在り方について考察を深める。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<p>①世界の農林水産業に関する分布や特徴、動向などに関する考察を基に、世界の農林水産業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとしている。</p> <p>②世界の農林水産業に関する考察を基に、日本の農林水産業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとしている。</p>	<p>①世界の農林水産業について、既習の知識や与えられた資料を基に、その分布や特徴、動向などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現することができる。</p> <p>②世界と日本の農林水産業の比較を通じて、日本の農林水産業が抱える諸課題や食料問題について考察し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現することができる。</p> <p>③グループ活動において、他者との意見交流の中で、自らの意見を筋道立てて表現することができる。また、他者の意見を参考にしながら発展的に考察を深め、その結果を様々な方法で適切に表現することができる。</p>	<p>①世界や日本の農林水産業に関する諸資料から有用な情報を適切に選択し、考察の参考にすることができる。</p>	<p>①世界や日本の農林水産業について、分布や特徴、動向などを理解している。</p> <p>②世界や日本の農林水産業に関する諸課題や食料問題について理解している。</p>

4 指導と評価の計画

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
1. 次 第 扱	<p>1 農業地域の形成条件</p> <p>【テーマ】 地域によって食文化が異なるのはどうしてだろう？</p> <p>【ねらい】 食文化の形成要因について、既習の知識や諸資料を活用しながら考察することによって、自然的条件や社会的条件・文化的条件など様々な条件の下で人々の生活様式が形成されていることを理解させ、今後の学習につなげていく。</p> <p>・中国の四大料理の特徴と分布から食文化の形成要因について考察し、自然的条件が食文化に大きな影響を与えていることを理解する。（→ 第三次の授業につなげる。） 【グループ活動】</p> <p>・先進国における穀物消費量の推移を示すグラフや、宗教分布図から、社会的・文化的条件が食文化に大きな影響を与えていることを読み取り、理解する。 【グループ活動】</p>		○			<p>③食文化の形成要因について、既習の知識を基に考察することで理解を深め、その過程や結果を表現することができる。 【プリント、観察、自己評価】</p> <p>①食文化の形成要因について、諸資料を活用しながら考察することができる。【プリント、観察、自己評価】</p>

1 次 二第

<p>2 人口希薄な地域でみられる農業 【テーマ】 厳しい条件下で人々はどうに生きてきたのだろうか？ 【ねらい】 厳しい自然環境下における人々の生活様式について、既習の知識や諸資料を活用しながら考察することによって、厳しい自然環境下で行われている農牧業について理解を深める。また、それらの農牧業が行われている地域が抱えている諸課題について理解を深め、その解決策を考察する。</p>						
い	<ul style="list-style-type: none"> 地球上に存在する厳しい自然環境 (Af, B, D, E) における人々の生活様式について、日本の風土や日本人の生活様式と比較しながら考察する。 【グループ活動】 	○				<p>③グループ活動を通じて、厳しい自然環境下における人々の生活様式について考察を深め、本時の授業に対する関心を高めようとしている。 【プリント、観察、自己評価】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 焼畑農業、遊牧、オアシス農業について、その分布や特徴 (生産物や形態など) を理解する。 焼畑農業や遊牧、オアシス農業が行われている地域が抱えている課題について理解を深め、その解決策を考察する。 【グループ活動】 	○				<p>○ ①焼畑農業、遊牧、オアシス農業の分布や特徴を、自然環境と結び付けて理解している。 【プリント】</p> <p>①農牧業の観点から地球環境問題や民族の伝統的固有文化の衰退などの諸課題について理解を深め、その解決策について意欲的に探求しようとしている。 【プリント、観察、自己評価】</p>

1 次 三第

<p>3 人口が多く集まるアジアの農業 【テーマ】 なぜ日本人は米を食べるのだろうか？ 【ねらい】 アジアで行われている畑作農業・稲作農業について、自然的条件や社会的条件と結びつけて理解するとともに、東南アジアで行われている稲作農業と比較しながら、日本の農業が抱えている諸課題について考察する。</p>						
時間 扱い	<ul style="list-style-type: none"> インドの主要生産物 (綿花、米、小麦) の分布図から、農業が自然的条件や社会的条件と結びついて成立していることを再確認する。 第一次で学んだ知識を基に、アジアで行われている農業分布を理解する。 東南アジアで行われている稲作農業の特徴を自然的条件と結び付けて理解する。 					<p>○ ①既習の知識や提示された諸資料を活用して、インドの農業分布について理解している。 【プリント】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 提示された諸資料を読み取り、東南アジアで行われている稲作農業と日本の稲作農業の違いを比較しながら、日本が抱える諸課題について考察を深める。(→ 第十次の授業につなげる。) 【グループ活動】 	○				<p>○ ①既習の知識を活用して、日本が古代から稲作農業を行ってきた理由を理解している。 【プリント】</p> <p>○ ①浮稲や棚田、緑の革命など、東南アジアの国々が自然環境に応じた稲作を行っていることを理解している。 【プリント】</p> <p>②諸資料を読み取りながらタイの稲作の特徴を理解する。また、タイの稲作との比較を通じて、日本の稲作が抱える課題について意欲的に探求しようとしている。 【プリント、観察、自己評価】</p>

1 次 四第

<p>4 商業的性格の強い農業① (ヨーロッパ) 【テーマ】 特産品が誕生する背景は何だろうか？ 【ねらい】 既習の知識や提示された諸資料を活用しながら考察することによって、ヨーロッパの農牧業の歴史や特徴をその地域の風土や人々の生活様式と結び付けて理解する。</p>						
い	<ul style="list-style-type: none"> イタリア、ドイツ、スイス、オランダの特産品を取り上げ、既習の知識や諸資料を活用しながら、なぜそのような特産品が誕生したのか考察することによって、ヨーロッパの農牧業の特徴について理解する。 【グループ活動】 	○				<p>①ヨーロッパの農牧業の分布や特徴について、既習の知識や諸資料を活用しながら考察することで理解を深め、その過程や結果を表現することができる。 【プリント、観察、自己評価】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの農牧業に見られる様々な工夫を考察することによって、農業の発展過程や成立条件について理解する。 【グループ活動】 	○				<p>①農牧業の発展の歴史や成立条件について、グループ活動を通じて理解を深め、その過程や結果を表現することができる。 【プリント、観察、自己評価】</p>

1 次 五第

<p>4 商業的性格の強い農業② (アメリカ合衆国) 【テーマ】 牛肉の値段はなぜこんなに違うのだろうか？ 【ねらい】 既習の知識や提示された資料を活用しながら考察することによって、アメリカなどで行われている企業的農牧業について理解する。また、アメリカの農牧業との比較・考察を通じて、日本の農牧業について理解するとともに、日本が抱えている諸問題について考察する。</p>						
い	<ul style="list-style-type: none"> 農業分布図や諸資料を参考にしながらアメリカの農牧業の特徴を考察することによって、企業的農牧業について自然的条件・社会的条件と結び付けて理解する。 【グループ活動】 					<p>○ ①既習の知識や諸資料を活用しながら、アメリカの農牧業の特徴を考察し、企業的農牧業について理解している。 【プリント】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> アメリカの農牧業との比較・考察を通じて、日本の農牧業の特徴について理解するとともに、日本が抱える諸問題について考察する。(→ 第十次の授業につなげる。) 【グループ活動】 	○				<p>②アメリカの農牧業との比較を通じて、日本の農牧業が抱える課題について意欲的に探求しようとしている。 【プリント、観察、自己評価】</p>

1- 第六次

い

4 商業的性格の強い農業③ (プランテーション農業)
 【テーマ】 バナナはどこからやってきた？
 【ねらい】 提示された資料を活用しながらプランテーション農業について理解を深める。また、プランテーション農業が成立した歴史的過程を理解するとともに、農業の観点から世界経済の在り方について考察する。

・バナナ、コーヒー豆、カカオ、天然ゴムの主要生産国と主要輸入国の分布や経済力を諸資料から読み取り、世界経済の地域的偏り (南北問題) について理解する。
 ・プランテーション農業の成立過程を歴史的観点から理解するとともに、モノカルチャー経済が南北問題の要因になっていることを理解する。
 ・DVDを視聴してプランテーション農業の実態を理解し、今後の世界経済の在り方について考察する。 【グループ活動】

○
○
○

①諸資料を活用しながら、プランテーション農業の分布や特徴について考察し、理解している。【プリント】
 ②プランテーション農業を行っている国々が抱えている諸問題や南北問題について、歴史的背景を踏まえて理解している。【プリント】
 ③既習の知識や諸資料を活用しながら経済体制の在り方について考察し、グループ交流を通じて自分の意見をまとめ、表現することができる。【プリント、観察、自己評価】

第七次

い

5 世界農業の動向
 【テーマ】 「儲けること」と「安全であること」、どちらが大事？
 【ねらい】 農業における技術革新やアグリビジネスの発展とその弊害について、諸資料を活用しながら理解を深め、今後の世界農業の在り方について考察する。また、日本が抱える諸問題について、世界農業の動向と結び付けながら考察する。

・実例を基にしながら技術革新やアグリビジネスの発展について、そのメリットやデメリットについて考察することによって理解を深める。また、今後の農業の在り方について、人間の消費活動の観点も踏まえながら考察する。 【グループ活動】
 ・世界農業の動向を国際体制と結び付けながら理解するとともに、国際体制下において日本が抱える諸課題や今後の農林水産業の在り方についてTPPと結び付けて考察する。(→ 第十次の授業につなげる。) 【グループ活動】

○
○

③商業的農業の発展とその課題、および今後の農業の在り方や、消費活動の在り方について考察し、グループ活動を通じて自分の意見をまとめ、表現することができる。【プリント、観察、自己評価】
 ②日本の農業が抱える諸課題を国際体制と結び付けて理解し、今後の日本の在り方について考察し、TPPの参加について自分の意見をまとめ、表現することができる。【プリント、観察、自己評価】

第八次

い

6 世界の水産業
 【テーマ】 魚はどこからやってきた？
 【ねらい】 世界の水産業の現状について、諸資料を活用しながら理解を深め、今後の水産業の在り方について考察する。また、水産業の動向と結び付けながら日本の水産業が抱える諸問題について考察する。

・既習の知識を活用しながら漁場の分布について理解するとともに、世界各国の漁獲量・輸出量を示したグラフなどの諸資料を読み取り、漁業の成立条件や方法、および漁業技術の発展について理解する。 【グループ活動】
 ・日本の水産業の現状と課題について、諸資料を活用しながら考察し、世界の水産業の動向と結び付けて理解する。(→ 第十次の授業につなげる。) 【グループ活動】

○

①既習の知識や諸資料を活用しながら、漁業の分布や成立条件、方法などについて考察し、理解している。【プリント】
 ②日本の水産業の現状と諸課題を世界の水産業の動向と関連付けて理解し、今後の日本の在り方について意欲的に探求しようとしている。【プリント、観察、自己評価】

第九次

い

7 食料問題
 【テーマ】 果たして食料は足りるのか？
 【ねらい】 諸資料を活用しながら食料問題の現状やその原因について理解を深め、今後の国際体制の在り方について考察する。

・現在の食料生産量で世界の人々が生活できるのか予想し、諸資料を活用しながら食料問題の地域性について理解する。
 ・既習の知識や諸資料を活用しながら食料問題の原因について考察し、理解を深める。 【グループ活動】
 ・食料問題が南北の経済格差と密接な結び付きがあることを理解し、今後の国際体制の在り方や援助の在り方について考察する。 【グループ活動】

○
○

②食料問題の地域性を南北問題と結び付けて理解している。【プリント】
 ②既習の知識や諸資料を活用しながら食料問題の原因について考察し、その過程や結果をまとめ、表現することができる。【プリント、観察、自己評価】
 ③今後の国際体制の在り方や援助の在り方について自分の意見をまとめ、表現することができる。【プリント、観察、自己評価】

10時

第十次

い

8 日本の農林水産業 【テーマ】 日本の農林水産業はどうあるべきだろうか？ 【ねらい】 既習の知識を活用しながら日本の農林水産業が抱える諸問題や食料問題について理解を深め、他国との比較を通じて今後の農林水産業の在り方について考察する。				
・これまでの学習を振り返り、日本の農林水産業が抱える諸問題について再確認する。 【グループ活動】 ・食料自給率が高いヨーロッパの農牧業や持続的に成長を続けているノルウェーの水産業との比較を通じ、日本の農林水産業が抱える諸問題や食料問題の原因について考察するとともに、今後の在り方について考察する。 【グループ活動】				○ ②日本の農林水産業が抱える諸問題について確実に理解している。 【プリント】 ○ ③他国との比較を通じて、日本の農林水産業が抱える諸問題や食料問題の原因、および国際体制下における今後の日本の在り方について考察し、自分の言葉でまとめ、表現することができる。 【プリント、観察、自己評価】

※「評価規準等」の欄の○印の番号は、「□単元の評価規準」における各観点別の評価規準の番号と一致している。

学習指導案

教科(科目)	地理歴史(地理B)	単元名	第Ⅱ編：現代世界の系統地理的考察 第2章：資源と産業 第1節：農林水産業 4 商業的性格の強い農業(4時間目/10時間目)
本時のテーマ	特産品が誕生した背景は何だろう？		
本時の目標	既習の知識や諸資料を活用しながら考察することによって、ヨーロッパの農牧業の歴史や特徴をその地域の風土や人々の生活様式と結び付けて理解する。		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの農牧業の分布や特徴について、既習の知識や諸資料を活用しながら考察することによって理解を深めるとともに、その過程や結果を表現することができる。 【思考・判断・表現】 ・農牧業の発展の歴史や成立条件について、グループ活動を通じて理解を深めるとともに、その過程や結果を表現することができる。 【思考・判断・表現】 		
指導の内容・ねらい	学習活動		指導上の留意点・観点別評価
導入 ・アイスブレイク ・本時のテーマの提示	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <Question 1> ・次の①～④の国で思いつく有名なモノと言えば？ ①イタリア ②ドイツ ③スイス ④オランダ </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【グループ活動 1】 ・グループごとに分かれ、それぞれの国で思いつくモノをミニホワイトボードに記入し、黒板に貼る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <本時のテーマ> 特産品が誕生する背景には何があるだろう？ </div> ○提示された本時のテーマをプリントに記入する。		<ul style="list-style-type: none"> ・事前に4～5人一組のグループを作成しておく。 ・グループを作り、自分達の知っている知識を出し合いながら、それぞれの答えを記入する。 ・グループ活動終了後、スライドで各国の特産品を紹介する。
展開① ・意見交流を通じての考察と発表 ・考察から理解への転換(ヨーロッパの農牧業の特徴)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <Question 2> ・①～④の国では、どのような農業が行われているだろうか？ </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【グループ活動 2】 (1) 活動1であげられたモノから、それぞれの地域で栽培されている作物や、飼育されている家畜などを考える。 (2) 活動2-(1)から出てきた答えを基に、既習の知識を振り返ったり、スライドを参考にしたりしながら、それぞれの地域の気候や地形の特徴を考察し、まとめる。 (3) 各グループで考察してまとめたことを、全体の場で発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ① イタリア … 地中海性気候に属し、夏の乾燥に耐えうる小麦や樹木作物(オリーブ、ブドウ、コルクがし等)が栽培される。 ⇒ 地中海式農業 ② ドイツ … 西岸海洋性気候に属し、安定した気温と降水量。平野が多いため、麦類や家畜用飼料作物の栽培と牧畜(食肉用家畜の飼育)が盛んに行われている。 ⇒ 混合農業 ③ スイス … 山脈が国土の約70%を占めており、平野部が少ない。そのため自給用作物の栽培と自然牧草地を利用した牧畜(主に乳牛を飼育)が伝統的に行われている。 ⇒ 酪農 ④ オランダ … 国土の約40%がボルダーで、農地面積狭い。単位面積あたりの収益が大きい野菜や花を栽培。 ⇒ 園芸農業 ※ヨーロッパでは、自給用の穀物栽培と商業用の作物栽培および牧畜が有機的に結びついた農業が発達した。 ○教員による説明を聞きながら、板書をプリントに記入する。		<ul style="list-style-type: none"> ・再びグループを作り、意見交流を通じて、考察を深めさせる。 ・ヨーロッパの地形やケッペンの気候区分を示した地図、それぞれの地域の様子を示した写真などをスライドで流しながらヒントを与え、考察を深めさせる。 ・グループでまとめた意見をプリントに記入し、教員によって指名された生徒が発表する。 ※誰が指名されても答えることができるようにしておくことを事前に伝えておく。 ・各グループの発表について、他グループからも意見を寄せ、考察を深めていく。 ・各グループの発表後に教員がそれぞれの発表について補足説明をすることで、考察したことを理解につなげていく。
			(評価方法) グループ活動を通じて既習の知識を確認しながら、ヨーロッパの農業の特徴についての考察を自分の言葉で表現することができる。 【思考・判断・表現】

<p>展開②</p>	<p>・意見交流を通じての考察と発表</p> <p>・考察から理解への転換（農業の発展）</p>	<p><Question 3></p> <p>・ヨーロッパの農業はどのようにして発展してきたか？</p> <p>【グループ活動 3】</p> <p>(1) 地力を衰えさせず、効率よく農地を活用する方法を考える。</p> <p>(2) なぜ、牧畜が行われるようになったのか考える。</p> <p>(3) 地中海沿岸部で三圃式農業が発達しなかった理由を考える。</p> <p>(4) 園芸農業がどのような地域で発達するのかを考える。</p> <p>(5) 各グループで考察したことをまとめ、全体場で発表する。</p> <p>①地力を衰えさせず農業を行うために二圃式農業 → 三圃式農業 → ノーフォーク農業と発展し、現在の農業に発展した。</p> <p>②休閑地で家畜を育てることで、肉や酪製品を販売することができる。また、家畜の糞尿で地力を回復させることができる。</p> <p>③地中海性気候は夏の降水量が少ない気候であるため、三圃式農業が発展する条件が整っていない。</p> <p>④園芸農業は、消費地に近い大都市近郊で成立した（近郊農業）。輸送手段の発達によって、消費地から離れた地域でも発達するようになった（輸送園芸）。</p> <p>○教員による説明を聞きながら、板書をプリントに記入する。</p>	<p>・再びグループを作り、意見交流を通じて、考察を深めさせる。</p> <p>・グループでまとめた意見をプリントに記入し、教員によって指名された生徒が発表する。</p> <p>※誰が指名されても答えることができるようにしておくことを事前に伝えておく。</p> <p>・各グループの発表について、他グループからも意見を寄せ、考察を深めていく。</p> <p>・各グループの発表後に教員がそれぞれの発表について補足説明をすることで、考察したことを理解につなげていく。</p> <p>（評価方法） グループ活動を通じて考察を深め、その過程や結果をまとめ、表現することができる。 【思考・判断・表現】</p>
<p>まとめ</p>	<p>本時の振り返り</p>	<p>○本時のテーマについての振り返りを行う。</p> <p><本時のテーマ></p> <p>特産品が誕生する背景には何があるだろう？</p> <p>【グループ活動 4】</p> <p>・グループごとに分かれ、テーマに対する答えをまとめ、代表者が発表する。</p> <p><予想されるまとめ></p> <p>・その地域の風土（地形・気候）に適応させた農牧業が営まれたことによって、その地域ならではの特産品が誕生した。</p> <p>・人間は、与えられた自然環境に適応しようと様々な努力・工夫をして生活しており、その地域ならではの特産品が誕生した。</p> <p>○次の各項目について5段階で自己評価をし、授業の感想・反省をプリントに記入する。</p> <p>・既習の知識や諸資料を基に、考察を深めることができたか？</p> <p>・グループ活動において、自分の意見を積極的に述べることができたか？</p> <p>・グループ活動において、他者の意見を参考にしながら、自分の考えをまとめることができたか？</p> <p>・グループ活動を通じて、授業内容を深め、理解することができたか？</p>	<p>○本時テーマを再び投げかけ、グループで答えをまとめさせる。</p> <p>（評価方法） グループ活動を通じて、学んだ知識をまとめ、表現することができる。 【思考・判断・表現】</p> <p>○本時の授業を振り返らせ、自己評価をさせる。</p>

班

【活動1】 次の①～④の国で思い付く有名なモノと言えば？ (ホワイトボードにも記入しよう！)

①イタリア	②ドイツ	③スイス	④オランダ

【活動2】 ①～④の国では、どのような農業が行われているだろうか？

(1) 【活動1】 であげられたモノから、それぞれの地域で栽培されている作物や、飼育されている家畜を考えてみよう！

①イタリア	②ドイツ	③スイス	④オランダ

(2) 【活動2-1】 から出てきた答えをもとに、それぞれの地域の気候や地形の特徴をまとめてみよう！

	「地形」や「気候」の特徴 (※これまでの授業で習ったことや、スライドを参考にまとめてみよう！)
①イタリア	
②ドイツ	
③スイス	
④オランダ	

【活動3】: ヨーロッパの農業はどのように発展してきたらう？

(1) 地力を衰えさせずに効率よく農地を活用するにはどうしたらよい？

土地

(2) なぜ、「牧畜」を行うようになったのだろうか？

(3) 地中海沿岸部で「三圃式農業」が発達しなかった理由は？

(4) 「園芸農業」はどのような場所で発達する？

授業の理解度 [5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1]

自己評価

- ① 既習の知識や読資料を基に、考察を深めることができたか。 [5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1]
- ② グループ活動において、自分の意見を積極的に述べることができたか？ [5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1]
- ③ グループ活動において、他者の意見を参考にしながら、自分の考えをまとめることができたか？ [5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1]
- ④ グループ活動を通じて、授業内容を深め、理解することができたか？ [5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1]

感想・反省等

年 組 番：

授業の事後分析（反省・課題）

導入（グループ活動1）

「次にあげる国で思い付くものは？」という問いかけで、アイスブレイクも兼ねてグループワークを行った。唐突な問いかけではあったが、グループで活動したことにより様々な意見が飛び交い、こちら側が意図する意見が出てきた。スライドを見せたことにより、より興味・関心をもたせることもでき、導入としては成功したと思われる。



テーマ設定

生徒から挙げられた意見を基に、「特産品が誕生する背景には何があるだろう？」というテーマを投げかけたが、「特産品」の定義が難しく、テーマとして成り立つのかどうかという問題が残った。

展開①（グループ活動2）

- ・「既習の知識を活用して考察を行う」ことをねらいとしてグループ活動を行った。どのグループも興味・関心をもって意欲的に活動を行っていたものの、知識がしっかりしたものとして定着していなかったため、教員が想定していた答えまで辿り着くグループが少なかった。
- ・考察する際のヒントとなるように、プロジェクターを用いて各国の雨温図や風景写真をスライドで流した。しかし、グループ活動が始まった段階でスライドを流したため、資料を見るために前を向く度にグループ活動が中断してしまい、資料の見せ方としては効果的ではなかった。
- ・「考察したことを適切に表現する」ことをねらいとして、代表者に発表する機会を設けたが、十分な考察が行えなかったため、しっかりとした根拠に基づく説明ができなかった。

→ 既習の知識とは言え、考察を行わせる前に少し知識を確認する時間を取ったり、キーワードとなる単語をプリントにあらかじめ載せておくなどの配慮をすべきであった。また、グループ活動を行わせる際の資料提示の方法をしっかりと考えておくべきだった。講義型一斉授業の際にはプロジェクター投影は効果的ではあるが、グループ活動を行わせる際には、グループに一枚資料プリントとして配布した方が効果的であると思われる。

- ・全てのグループに全ての国について考察させたため、十分な考察を行って内容を深めるまでには至らなかった。

→ ねらいや目的に応じたグループ活動の形態を考えるべきであった。今回の授業では、クラスを4つのグループに分けて活動を行わせたので、各グループに一つずつ考察させ、皆で共有するジグソー法を用いるべきであった。

- ・予定通りに授業は進まなかったが、「一度は自分達で考えてみる」という機会を与えたことにより、教員の説明に対して「ああ、そんなことやったなあ。」という反応があった。前に習った知識の確認ができ、以前より知識を定着させることができたのではないかと考える。

展開②（グループ活動②）

- ・発問自体がそれほど難しくなかったため、生徒の既存の知識で対応できた。また、グループで意見を出し合ったことにより、全てのグループが教員の意図する答えまで辿り着けた。
- ・少し難しい発問（「園芸農業はどのような地域で発達したのか？」）については、教員のヒントを手がかりにしながら、答えまで到達することができた。

まとめ(本時の振り返り)

- ・「(1)本時のテーマに対する答えを、自分の言葉でまとめてみよう！」に関しては、書くことに慣れていない本校生徒なりに頑張って書いてくれたと思う。しかし、「論述」という面で考えるとまだまだ十分ではない。早い段階から目的をもたせ、繰り返しトレーニングを行うことの必要性を感じた。
- ・(2)の本時の確認をする小テストでは、グループで確認して行かせたことにより、ほとんどの生徒が正解に辿り着いた。他学年の生徒からも「授業で学んだことを確認する時間が欲しい。」といった声が挙げられているので、今後もこのような形を取り入れていきたい。

★生徒の自己評価

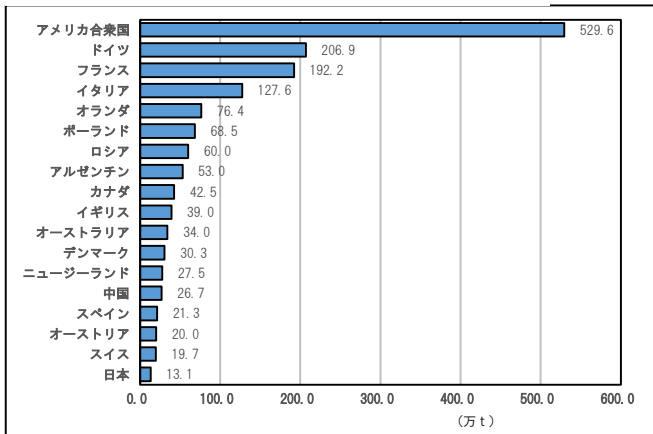
	5		4		3		2		1	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
①授業の理解度	3	17.6	5	29.4	7	41.2	1	5.9	1	5.9
②既習の知識や諸資料を基に、考察を深めることができたか?	5	29.4	4	23.5	5	29.4	1	5.9	2	11.8
③グループ活動において、自分の意見を積極的に述べることができたか?	4	23.5	3	17.6	5	29.4	2	11.8	3	17.6
④グループ活動において、他者の意見を尊重しながら、自分の考えをまとめることができたか?	2	11.8	6	35.3	5	29.4	2	11.8	2	11.8
⑤グループ活動を通じて授業内容を深め、理解することができたか?	3	17.6	2	11.8	7	41.2	3	17.6	2	11.8

- ・自己評価の感想欄に「グループ活動が楽しかった。」と肯定的意見を述べてくれる生徒が多く、授業に主体的に参加させる手段としてグループ活動が効果的であることが分かった。しかし、数値的に見てみると、グループ活動が知識の定着につながったかどうかについてはやや疑問が残る。自分自身がアクティブラーニングの手法を授業に取り入れて間もないので、継続的にチャレンジし、生徒の反応や授業アンケートの結果を見ながら、「習得」「活用」「探求」のバランスが取れた効果的な授業方法について考えていきたい。
- ・実際に授業を行ってみて、生徒の実態（知識の習得度や各スキルの習熟度など）を把握しておくことの大切さを痛感した。生徒の実態に合わせて、1時間の授業の中に盛り込む内容量や取り扱う内容の難易度、授業形態を考える必要があると感じた。
- ・生徒にグループ活動を行わせることの大変さを痛感した。ただグループ活動を行っただけに終わってしまわないように、「何を目的としてグループ活動を取り入れるのか」をしっかりと考え、「教える内容」と「話し合わせる内容」を整理した上で授業を計画する必要があると感じた。
- ・年間指導計画・単元指導計画を作成する段階で、「どの内容で」「何を目的として」「どの形態で」授業を行うのかをしっかりと計画立てる必要があると感じた。
- ・中学校時に不登校だった生徒が多い本校では、共同作業を行うことを苦手とする生徒が多い。グループ活動においても、自分の意見を述べることができない生徒や、一緒に活動を行うこと自体を拒否する生徒がいた。グループを作る段階で、メンバーに関する配慮はしたが、授業の中においてもそのような生徒に対する具体的手だてをしっかりと考えておく必要がある。その手だてを考えた上で繰り返しトレーニングを行い、自己表現のスキルを身に付けさせていきたい。総合的な学習の時間で行っている SST とも関連付けながら、授業の在り方について考えていきたい。

評価問題例

1 ヨーロッパの農業について、下の資料を見て以下の設問に答えよ。

【資料1】 チーズの主要生産国 (2012)



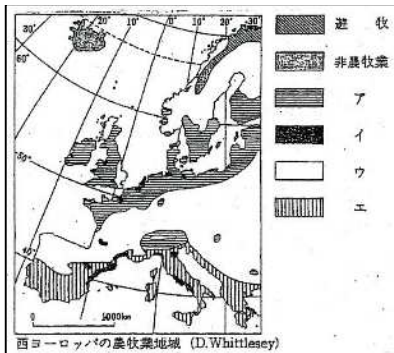
(資料：帝国書院 出典：FAO)

【資料2】 乳製品・卵の主要輸出国 (2014)

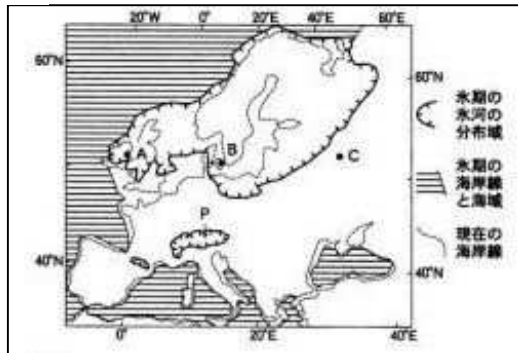
順位	国名	輸出額 (百万ドル)	国土面積 (千km ²)
1	オランダ	13,165	37
2	ドイツ	12,438	357
3	ニュージーランド	12,111	270
4	フランス	9,357	552
5	米国	6,348	9,629
6	ベルギー	4,761	31
7	イタリア	3,725	301
8	ポーランド	2,839	313
9	デンマーク	2,725	43
10	イギリス	2,468	243
11	アイルランド	2,437	70
12	ベラルーシ	2,378	208
13	オーストラリア	2,312	7,692
14	スペイン	1,616	506
15	オーストリア	1,572	84
16	アルゼンチン	1,348	2,780
17	アラブ首長国連邦	1,111	84
18	チェコ	1,056	79
19	サウジアラビア	1,040	2,150
20	スイス	828	41
44	中国	286	9,598
74	日本	37	378

(資料：GLOBAL NOTE 出典：UNCTAD)

【資料3】



【資料4】



(東京大学地理B入試問題 (2007年) より)

【問1】 スイス・オランダ・デンマークで発達した農牧業を答えよ。

【問2】 以下の文章中の空欄〔 1 〕～〔 4 〕に適する語句をそれぞれ答えよ。

スイスは、新規造山帯に属する〔 1 〕などの山脈が国土の70%を占めており、農業に不向きな土地柄である。そのため、山岳の斜面を牧場として利用した牧畜が古くから行われている。なお、夏に山岳地の牧場で飼育し、冬は麓の村で舎飼いする牧畜の形態を〔 2 〕という。

オランダは、海面より低く、水はけの悪い〔 3 〕と呼ばれる干拓地が国土の約4分の1を占め、農業に適している土地が少ない。そのため、〔 3 〕を牧草地として利用した牧畜や、近郊都市向けの野菜や花卉を生産する〔 4 〕が古くから発達した。

【問3】 【問1】の農牧業の特徴を、収益性の面から簡潔に説明せよ。

【問4】 デンマークで【問1】の農牧業が発達した理由を簡潔に説明せよ。

<解答> 【問1】酪農

【問2】 1. アルプス山脈 2. 移牧 3. ポルダー 4. 園芸農業

【問3】 単位面積あたりの収益性が高い。

【問4】 国土面積が狭く、氷河地形であるために土地が痩せており、農作物の生産には適していないから。